復興11	令和8年度 地域課題研究ゼミナール支援事業　中間報告		
指導教員	金沢美術工芸大学　河崎圭吾	参加学生数	5
課題タイトル	里海をひらく － 海中観察モビリティから始まる黒島・復興デザインプロジェクト		
活動地域	輪島市	連携団体等	一般社団法人湊
活動概要	能登半島地震と豪雨により、輪島市門前町黒島地区は出船設備が損壊し、漁業継続が危ぶまれています。本活動では、株式会社湊が掲げる「里海シェア」構想に基づき、漁港を「漁業の場」から「海と人が溶け合う拠点」へ再定義することを目指します。 具体的には、海底隆起等の地形変化を新たな魅力と捉え直し、海中を直接観察できる「海中移動モビリティ」の在り方を学生主体で提案します。現地調査や住民へのヒアリングを通じ、既存インフラと相性の良い移動手段を模索・具現化することで、マリンアクティビティ等の新たな接点を創出します。多様な層が海を分かち合う仕組みを共に作り上げ、持続可能な復興モデルの構築に寄与します。		
活動状況	7月25日(土)6名実証実験(1回目) 7月26日(日)6名実験結果の問題点洗い出し		
今後の予定	8月下旬(2回目)実証実験2～3名 9月上旬(3回目)実証実験5～6名		

活動の写真

